

地域とともにある学校 魅力ある学校づくりを目指して

北海道栗山高等学校 栗山で学び、栗山で輝く

2021/6/24（木）発行

校長通信 NO 17

北海道栗山高等学校
町 田 英 謙

PTA 理事会・各種専門委員会

5月18日（火）18：20に、本校でPTA理事会・各種専門委員会が開催されました。

この会議は、4月26日におこなわれたPTA・教育振興会総会をもとに、今年度の活動の確認及び、各種委員会の役割分担と代表者を決定する大切な会議です。

PTA役員については次の通りです。

PTA会 長 田中 貴志 様
副会長 西川 梨香 様 坂口 卓也 様 原田 優司 様
監 査 山岡 佐和美 様 富山 知一 様
1 学年代表 宮本 希美 様
2 学年代表 山口 留美 様
3 学年代表 山村 雪江 様

総務委員会

委 員 長 武岡 奈々美 様
副委員長 対馬 久美 様
委 員 坂口 卓也 様 原田 優司 様 富山 文恵 様
羽鳥 弥香 様 安部 佐緒利 様
担当教諭 野村 愛

研修委員会

委 員 長 布谷 久美子 様
副委員長 山崎 智加子 様
委 員 西川 梨香 様 山岡 佐和美 様
熊田 里美 様 山口 留美 様 山村 雪江 様
担当教諭 佐藤 樹也

生徒指導委員会

委 員 長 山森 晶子 様
副委員長 笹森 朋子 様
委 員 田中 貴志 様 富山 知一 様 宮本 美紀 様
三條 美香 様 山口 優 様
担当教諭 古川 泰弘

委員の皆様におかれましては、コロナ禍で大変な状況ですが、生徒、保護者、教職員が協働して学校運営をすすめていきたいと思っておりますので、これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。

前期全道校長会

5月に対面形式で予定されていた全道校長会ですが、緊急事態宣言により、一ヶ月延長し、6月3日（木）にZoom開催となりました。冒頭、会長挨拶で廣田定憲 様（札幌南高等学校長）から、コロナ禍で大変な状況であるが、各校の校長先生におかれましては、様々な教育活動をできないのではなく、どうしたらできるのかという発想に立って、生徒達のために工夫した教育課程の実施に向け、学校経営にあたっていただきたいとご挨拶がありました。

その後、全道279校（道立、市町村立、私立）の校長が参加のなか、総会では、今年度の組織内容、事業内容、会計等の確認がされました。また、研究協議会では、2校の研究発表がありました。指導助言として、北海道教育庁教育指導監の佐藤裕之 様より、2校に対するご講評をいただき、加えて今年度の本道教育に望む重点事項等につきまして次のように周知されましたのでご紹介します。

校長先生方々には、日頃より北海道高等学校教育の充実と発展のためご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

現在、中教審答申による魅力ある高校教育が求められている。現代社会に適応した教育目標の設定や、基礎基本を大切にしたい学校経営を実践すること。本道は約7割が普通科高校であるが、各校の生徒の実態や地域の状況を考慮し、スクールミッションの策定し、新しい社会に対応した魅力ある高校づくりの推進して欲しい。

今年度、以下5点について各校で徹底していただきたい。

①コロナの対応

- ・オンライン学習の推進 スムーズに移行 連携
- ・やれることからやる

②新学習指導要領

- ・着実な実施 個に応じた指導 主体的対話的で深い学び
- ・大学入試改革 実施年の令和4年度が迫っている

③働き方改革の推進

- ・北海道アクションプラン 第2期
- ・個の気づき チームの対応
- ・気づいたことを拾い上げて次に繋げる

④人材育成

- ・教職員のOJT学べる機会の拡大 育成、配慮

⑤危機管理

- ・学校事故 質の高い素早い判断と対応
- ・記録作成 時系列

これからも国、道の動向を見守り、各学校に対応が求められるが、生徒の可能性を最大限に伸長することを願いたい。

前期中間考査の実施

6月7日（月）から9日（水）までの3日間、前期中間考査学校実施されました。

1年生にとっては高等学校に入学してから初めての定期考査であり、緊張した面持ちで受験していました。また、3年生にとっては就職や受験を目前に控え、調査書に成績通知される大切な考査であります。

普段の授業で学んだ学習がどの位定着しているか確認する指標として、生徒一人ひとり実力を最大限に発揮することを心から願っています。

高校配置計画会議を受けて

令和4年度以降の北海道高等学校配置計画の素案が公表されました。本校においては2クラス設置基準である生徒数が1名不足となり、令和4年度入学者の募集定員が1間口相当（9月に正式決定）になるよう、教職員人員が3名過員となります。現在の教育体制を維持していくためには、教育課程の部分改正と様々な工夫が必要となります。

今後、少子高齢化社会に向け、学校機関は地域の生徒達に学習環境を整え、教育水準を低下させることなく、学校運営をしていく責務があり、5年後の将来像を考察しながら、着実な計画を推進していく必要性があります。

国で検討されている少人数学級（30名程度）の学習形態がいち早く導入され、各地域の子供たちが地域に拓かれた高校に入学できることを考えていくことが必須です。

魅力ある高校づくりがクローズアップされている中、私が考える学校像の根幹は、地域の子供達、保護者が安心・安全して通学できる学校づくりではないかと思えます。